

委員会報告書

委員会名	2019年度第3回生産技術委員会
開催日時	2019年9月5日(木) 15:30~17:30
開催場所	三菱商事石油開発株式会社 4階会議室
出席者 (敬称略)	吉良委員長、下河原副委員長、森、大畑、鈴木(森)、有井、城戸、大内、鈴木(和)、林田、古井、内山(運営幹事)、長(運営幹事) 以上25名中13名
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員交代 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石油資源開発株式会社 大畑朋也様(協園様と交代)</li> </ul> </li> <li>2. 幹事会報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JAPT協会誌投稿論文の英語化検討について、図表キャプションのみ英語化する案が出ていたが、従来の和文での投稿を基本とする方針から逸脱するものであり、大きなメリットも無いと予測されることから取りやめる方向。</li> <li>・ 今年の春季講演会の講演数を整理し過去からの推移を集計。東京開催だったこともあり今年は昨年から数が減少した。直接の原因としては会員数や学生発表の減少が考えられるが、背景として油価の下落やシェールブームが落ち着いたことなどがあると推察される。</li> <li>・ 今年10/17に開催予定の秋季講演会はテーマ及びプログラムもほぼ固まりフライヤーもドラフト済みの状態である。</li> <li>・ 理事選挙規定の改定については、幹事会案として無投票当選の推奨と解職請求の項追加を理事会に提言した。</li> <li>・ JAPT協会賞選考委員会の運営指針骨子について議論中。10月までに最終化予定。JAPT会員全体に公開はしない方針。</li> <li>・ JAPT事務局主体で春季講演会などの講演会の申込み・要旨集販売の集金の代行サービスの導入を検討中。12月までに案を纏める予定。</li> </ul> </li> <li>3. 理事会報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記理事選挙規定改定の件の提案を受け、理事の数の見直しやJAPT HPでのオンライン投票の実現性なども含めた審議を継続中。</li> <li>・ 春季講演会の講演数減少傾向を鑑みて、理事会としても今年学生講演が全くなかった探鉱技術委員会を始め各委員会に今後積極的に大学とも交流する機会を創るよう働きかける方針。</li> </ul> </li> <li>4. シンポジウム原稿の査読状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全11件中、9件の初稿を受領し、6件は査読完了。初稿を受領していないものについてはリマインドを行っている。</li> <li>・ 9/9の編集委員会で状況を報告予定。</li> </ul> </li> <li>5. 2020年度春季講演会シンポジウムについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンポジウムの形式(パネルディスカッション実施の是非)について議論した。</li> <li>・ オーディエンスレスポンスシステムについて、機能・費用等について確認した。</li> <li>・ 今年度のアンケートを見ると、講演のみを希望する割合が65%、</li> </ul> </li> </ol>

講演＋パネルディスカッションを希望する割合が35%だった。パネルディスカッションについて踏み込んだコメントは特になかった。

- ・ オーディエンスレスポンスシステムはパネルディスカッションに限らず使えるのではないかと。講演者から会場に対する質問のような形で使える。
- ・ 大学の講義でもオーディエンスレスポンスシステムを使用しており、学生の反応は上々である。他学会での使用例を見たこともあるが、うまく活用できていない例もあり、ファシリテーターの役割が重要と感じる。
- ・ パネルディスカッションの内容が協会誌にも載ると考えると、自由なディスカッションは難しい。事前の周知な筋書きが必要で、パネラーも経験がある人でないと難しいかもしれない。
- ・ 講演テーマがばらばらなので、講演者をパネラーとして集めたとしてディスカッションになりにくいと考えられる。ディスカッションポイントを用意しておく必要があり、周知な準備を要する。
- ・ たとえば内容としては講演内容の総括的なものとして、テスト的にパネルディスカッション形式を行うことも考えられる。
- ・ ボランティア的にファシリテーターを務めていただける人がいるかわからない。ファシリテーターを生産技術委員会から出すことになる可能性がある。
- ・ パネルディスカッションのために人を呼ぶのはあまり現実的ではないと思われる。講演者の中から数人にパネラーとして登壇してもらう想定が現実的。
- ・ 2020年度にはテスト的にオーディエンスレスポンスシステムを使用し、もう一度アンケートを取って次年度のパネルディスカッションの実施について検討することも考えられる。
- ・ 2020年度は地方大会となるが、地方大会では石油業界からの参加者の割合が多いと考えられる。
- ・ 11月には形式（例年通りの講演会か、パネルディスカッションを行うか）を決定する。
- ・ 委員にアンケートを取り、講演内容の候補を挙げ、それをもとに講演形式、テーマについて議論を進めていくこととする。

#### 6. 大学での講演内容について

- ・ 11月1日の九州大学での委員会の予定について共有した。
- ・ 昨年と同様、「我が国の石油・天然ガス開発業界の活動紹介」をテーマに講演する。
- ・ なるべく多くの委員に出席をお願いする。運営幹事より後日改めて案内する。

#### 7. 次回以降の委員会開催場所について

- ・ 第4回 11月1日(金) 14:30～ @九州大学
- ・ 第5回 11月29日(金) 14:30～ @京都大学
- ・ 第6回 1月16日(木) 15:30～ @JX 石油開発
- ・ 第7回 3月5日(木) 15:30～ @JAPEX

以上